

リカちゃん「ごっこ遊びラボ」通信

「リカちゃん」人形による「ごっこ遊び」の効果を調査・検証！

「ごっこ遊び」が子どもの育ち・自我の発達へ与える影響に関する共同研究プロジェクト

「リカちゃん ごっこ遊びラボ」発足

ごっこ遊びに「コミュニケーション能力」「社会性」「なりたい自分像」を獲得する効果アリ？

株式会社タカラトミー（本社：東京都葛飾区、代表取締役社長：富山 幹太郎）と、特定非営利法人東京学芸大こども未来研究所（所在地：東京都小金井市、理事長：松田恵示）は、2012年3月28日より、「リカちゃん」人形による「ごっこ遊び」の子どもの発達への影響や効果を調査・研究する共同研究プロジェクトを発足いたします。

プロジェクト名を「リカちゃん ごっこ遊びラボ」と名付け、東京学芸大こども未来研究所の理事長であり、東京学芸大学芸術・スポーツ科学系教授の松田恵示先生のご監修のもと、プロジェクトメンバーや調査手法を選定、学術的な視点に基づき、定性、定量両面から調査・研究を進めてまいります。研究成果は継続的に発信し、「ごっこ遊び」の価値を生活者の皆さまに再認識していただくことを目指します。

「リカちゃん ごっこ遊びラボ」では、東京学芸大こども未来研究所および松田先生の日頃のご研究に基づき、「リカちゃん」人形による「ごっこ遊び」の効果を、①自己認識・他者認識能力の獲得、②他者との関係性構築能力・社会性の獲得、③なりたい自分像・将来像の獲得 とする仮説を設定しています。この仮説を「女兒のごっこ遊びへの参与観察調査（定性調査）」、「母親インタビュー調査（定性調査）」、「小学校高学年女子への振り返り調査（定量調査）」など、様々な手法を通じて調査・検証することにより、「ごっこ遊び」の具体的な効果を研究して参ります。

本プロジェクトの研究成果は商品やコンテンツ開発に活用し、子どもたちのより良い遊びにつながるよう、今後一層邁進していく所存です。また、今後も「リカちゃん ごっこ遊びラボ通信」は、継続的に発表していく予定です。

★ プロジェクトの目的

「リカちゃん」人形による「ごっこ遊び」が、子どもの育ち・自我の発達に仮説で提示した効果があるのかを調査・検証します。

★ 検証すべき仮説

下記3つの能力の獲得を、「リカちゃん」人形を使ったごっこ遊びの効果とする仮説を提唱。
定性、定量双方の側面から調査を実施、検証していきます。

①自己認識、他者認識能力の獲得

“人形を使用した「ごっこ遊び」により人の「心」の存在を認識出来るようになるとともに、自分とは違う「心」を持った人があることも認識する”

人形に自分の気持ちを託したり人格を投影することにより自分の「心」の存在を感じ取るとともに、同様に人形に心を託してごっこ遊びに興じるお友達を見て「他者」の存在を認識するのではないか。

②他者との関係性構築能力・社会性の獲得

“人形による「ごっこ遊び」により、コミュニケーション能力と社会性(文脈操作能力)が育まれる”

場面(文脈)によって、役割を演じ分ける能力の構築や、仲間内だけのコミュニケーションではなく、知らない人と共同作業をしたりする「社会性」が構築できるのではないか。

③ になりたい自分像・将来像の獲得

“「ごっこ遊び」の世界観に浸ることで、になりたい自分像や将来像を幅広く描けるようになる”

リカちゃんはお城などの「夢の世界」から、お店やさんや憧れの職業など「リアルな世界」までバラエティ豊かな「世界観」を構築している。これらに触れることにより、やりたいこと、になりたい自分像、将来の夢を自由に描き、幅広い将来像を獲得できるのではないか。

つまり、リカちゃん人形による「ごっこ遊び」を通して、

- ★ 自分の中に「心」を発見し、一緒に遊んでいるお友達にも自分とは違う「心」があることに気づく
- ★ お友だちと仲良く遊べるようになり、知らない子ども同士でも、状況や前後関係を見ながら仲良くできるようになる
- ★ 「リカちゃん」の世界観の中での体験を通じ、自分のしたいこと、なりたい自分、将来への憧れなどに気づく

…かどうかを検証していきます。

★ 調査研究概要

<定性調査> 4月~6月中旬実施予定

① 女兒のごっこ遊びへの参与観察調査:

女兒、及び親を対象にした調査。

親子、子ども同士でリカちゃん人形によるごっこ遊びをしてもらい、その様子を専門家が観察する。

② 母親インタビュー調査:

母親を対象にした調査。

リカちゃん人形によるごっこ遊びに関して、自身の経験、子どもの遊びの実態等自由な受け答えの中で語ってもらうことにより、「ごっこ(人形)遊び」の持つ潜在的な効能、教育的可能性等を明らかにする。

<定量調査> 6月下旬~9月実施予定

○ 小学校高学年女子への振り返り調査:

小学校5、6年生女子を対象としたアンケート調査。

リカちゃん人形による「ごっこ遊び」の(多)経験群と非(少)経験群による、様々な差異を把握する。

- ・「他者との関係性」の形成における、資質や能力に違いが見られるか／「自我」形成において違いが見られるか
- ・「思考の柔軟性」に違いが見られるか
- ・「ごっこ(人形)遊び」の経験は、子どもの玩具環境(所持量、質、遊び場等)に影響されるか
- ・「ごっこ遊び」の種類と、それぞれが子どもに与える効果

★ 展開スケジュール（予定）

2012年4～6月	定性調査実施(参与観察調査／母親ヒアリング調査)
2012年7月	「リカちゃん『ごっこ遊びラボ』通信」発行、定性調査結果報告
2012年6～9月	定量調査実施(小学校5、6年生を対象にしたアンケート調査)
2012年10月	「リカちゃん『ごっこ遊びラボ』通信」発行、定量調査結果報告
2012年12月	シンポジウム開催(仮)

★ プロジェクトメンバー

東京学芸大学 : 芸術・スポーツ科学系教授 松田 恵示 (リカちゃん ごっこ遊びラボ 所長)
総合教育科学系准教授 杉森 伸吉 他
九州共立大学 : スポーツ学部スポーツ学科准教授 松田 広

株式会社タカラトミー : リカちゃんグループ

- 松田 恵示(まつだ けいじ)
東京学芸大学 芸術・スポーツ科学系教授。文部科学省生涯学習調査官。
専攻は、教育社会学・スポーツ社会学。様々な遊び文化や身体文化について社会意識論の立場から研究している。また、学校と社会をつなぐための教育人材の育成や、スポーツ教育の開発を通じて、教育現場との実践的な共同作業を行っている。著書に『交叉する身体と遊び-あいまいさの文化社会学-』(1999、世界思想社)、『おもちゃと遊びのリアル-おもちゃ王国の現象学-』(2003、世界思想社)など。
- 杉森 伸吉(すぎもり しんきち)
東京学芸大学総合教育科学系准教授。
専攻は、学校心理学。主な研究として、個人-集団関係の文化社会心理学。子どもの野外集団生活を通じた成長や遊びの効用、いじめ、裁判員制度の集団心理学、株式会社JTB法人東京との産学連携として学校行事の効果評価システムの開発などを行っている。最近では、社会福祉分野で心理的支援の必要性に重点を置く講座も担当している。
日本パーソナリティ心理学会、日本教育心理学会、日本社会心理学会、野外文化教育学会常任理事、法と心理学会理事、公益社団法人青少年交友協会理事などを歴任。
- 松田 広(まつだ ひろし)
九州共立大学 スポーツ学部スポーツ学科准教授。
専攻は、青年教育論、保健体育科教育研究。生徒指導論等の講義を担当し、今現在における中高生の考え方や行動など特徴的な実態から規範意識や倫理観について扱っている。また、指導と評価の一体化を図る保健・体育の展開、確かな学力を育む学習指導のあり方などについても実践的な研究を進めている。
福岡県教育委員会主任指導主事、総括指導主事、福岡県立香椎高等学校教頭などを歴任。

★ 特定非営利活動法人 東京学芸大こども未来研究所 について

平成21年設立。日本の教員養成の基幹大学である東京学芸大学とおもちゃのテーマパークを運営する株式会社おもちゃ王国が協働、大学が持つ「知」を、社会に発信していくことを目的として設立。子どもを取り巻く「ひと(人材育成)」「モノ・コト(開発・調査)」、「コミュニケーション(伝達支援)」を軸に事業を展開。東京学芸大学内に実践研究の場として「こどもモードハウス」をつくり、遊び、玩具、地域教育に関する研究開発、調査を行っている。

株式会社タカラトミー について

株式会社タカラトミーは、1924年創業の総合玩具メーカーです。ダイキャスト製ミニカー「トミカ」(1970年～)、鉄道玩具「プラレール」(1959年～)、着せ替え人形「リカちゃん」(1967年～)といった親子二世代三世代に愛され続けるロングセラー商品や、変形ロボット「トランスフォーマー」、現代版ベゴマ「ベイブレード」といった人種や国境を越えて愛されるグローバル商品など、優良な“おもちゃ”を提供しています。

【タカラトミー公式サイト】<http://www.takaratomy.co.jp>

「リカちゃん」について

1967年に誕生した着せ替え人形「リカちゃん」は、身長22cmで、ドレスやハウスなどを使って「ごっこ遊び」や「おしゃれ遊び」を楽しむことができます。発売当初から年齢や家族、友達などのプロフィール設定がされているのが特徴で、常に時代ごとの流行を取り入れながら親子二世代三世代にわたって愛され続けています。「リカちゃん基本理念」として「子どもたちが成長する上で大切な“想像力”」「家族や友達とのコミュニケーション力や会話力」「やさしさ・人をいたわり愛する心」などを育ていけるような商品づくりを目指しています。

年少から小学3年生女兒の「リカちゃん」認知率は79.9%、また、その母親世代になると97.9%となり、ほぼすべての人が「リカちゃん」を知っていると回答しました。(2011年11月・タカラトミー調べ)

【リカちゃん公式サイト】<http://licca.takaratomy.co.jp/>



「リカちゃん」

■本資料に関するお問い合わせ先■

【株式会社タカラトミー 広報部】 TEL 03-5654-1280 / FAX 03-5654-1380

【NPO法人東京学芸大こども未来研究所】 TEL 042-312-4112